







### 6名の留学生が来町

-  **オウ トウキさん**  
国籍：中国  
ホストファミリー：岩永廣一郎宅(北落合)
-  **ク スソンさん**  
国籍：韓国  
ホストファミリー：曾慶一介宅(幾寅)
-  **チョウ シンユさん**  
国籍：台湾  
ホストファミリー：安西英紀宅(幾寅)
-  **ゴ カリュウさん**  
国籍：中国(香港)  
ホストファミリー：長谷川将宅(下金山)
-  **ハン シュクコウさん**  
国籍：中国  
ホストファミリー：五日市義治宅(幾寅)
-  **リュウ シキさん**  
国籍：中国(香港)  
ホストファミリー：小野秀さん(落合)

この事業は、(財)北海道国際交流センターの協力で留学生を招き、町民との交流から互いに国際理解と友好を深めようといわれているもので、本町で留学生の受け入れを始めて今年で18年目となりました。

## 国際交流のかけはし

8月18日から25日までの8日間、町国際交流協議会・岩永廣一郎(会長)の主催による『第10回南ふらの国際交流のかけはし』が行われ、今年は、東京の日本語学校に留学中の3カ国6名の留学生が、協議会員6世帯にホームステイしながら、南富良野の生活や文化に触れ、町民の皆さんとの交流のかけはし。この日の夜には、来賓や町民が参加して、「ウェルカム町民国際交流パーティー」がみなるで開かれ、一人ずつ日本語で自己紹介や参加した抱負などを述べたほか、出席した皆さんと会話をしたり、ビンゴゲームなどで交流を深めました。翌日の19日には、池部町長を表敬訪問。池部町長が中国語などで歓迎の言葉を述べた。留学生は8月18日に来町し、出迎えたホストファミリーと初対面し、笑顔で固い握手を交わしていました。

流も深めました。留学生は8月18日に来町し、出迎えたホストファミリーと初対面し、笑顔で固い握手を交わしていました。

この日の夜には、来賓や町民が参加して、「ウェルカム町民国際交流パーティー」がみなるで開かれ、一人ずつ日本語で自己紹介や参加した抱負などを述べたほか、出席した皆さんと会話をしたり、ビンゴゲームなどで交流を深めました。翌日の19日には、池部町長を表敬訪問。池部町長が中国語などで歓迎の言葉を述べた。

「同じアジアの国として、挨拶をするなど、なかなか雰囲気や懸念が行われ、留学生の皆さんは笑顔で母国の話や北海道についての感想を話していました。池部町長は、



6名の留学生が池部町長を表敬訪問



空知川でのラフティング体験

日本の良さを十分学んでいってください。」と激励しました。

引き続き行われた施設見学では町内を一周して、各施設や景色を見学し、本町の豊かな自然に感激した様子でした。

来町3日目の20日には、空知川でのラフティング体験しました。あいにくの肌寒い中での体験でしたが、「楽しかった」と話し、ラフティングの醍醐味を満喫したようでした。

21日には、学校訪問が行われ、それぞれ町内の小中学校を訪問し、元気な児童生徒の歓迎を受け、交流集会や料理教室などで楽しく交流しました。

24日には、各ホスト



書道の腕前を披露【下金山小学校】

ファミリーが留学生の国の料理を作って持ち寄り、「さよならパーティー」が開かれ、留学生やホストファミリーの歌や踊りなどが披露され、楽しいパーティーとなりました。

留学生の皆さんは、「あつという間の1週間でしたが、とても楽しく交流ができました。また南富良野に来たいです。」と話するなど、名残惜しいといった様子でした。

8月25日、役場前で見送り式が行われ、岩永協議会会長から、留学生へ激励の言葉が贈られた後、留学生から8日間一緒に生活した家族に、お礼とお別れの挨拶を述べ、涙を流しながら南富良野をあとにしました。



留学生に質問タイム【金山小学校】



うどんづくりに挑戦【落合小学校】



ゲームで交流【幾寅小学校】

### 高齢者や福祉施設利用者が一堂に会し交流

## 第35回福祉スポーツ大会



「輪投げリレー」

町および町社会福祉協議会の主催による「第35回福祉スポーツ大会」が8月26日、町民体育館を会場に行われ、各地区老人クラブの会員や福祉施設の利用者など234名が一堂に会し、福祉施設の利用者と地区別に赤(幾寅)、青(落合・下金山)、白(北落合・金山)の3チームに分かれて10種目の競技を楽しみ、交流を深めました。

競技では、ゲートボールリレーや輪投げリレーなどが行われ、参加した皆さんが、応援席からの声援を受けました。



「パン食い競争」

で、真剣な表情でのやゲートを狙うなど、チームの勝利を目指して熱戦が展開されました。

競技の結果、青チームが6年連続となる優勝を果たしました。

幾寅保育所園児による幼児競争では、園児たちが元気に駆ける姿に、お年寄りの皆さんは、目を細めながら拍手を送っていました。

競技の間には、特別プログラムとして、幾寅小学校の4年生から6年生の児童が、「よっちゃんれ」を元気いっぱい披露し、大会を盛り上げていました。

本大会の開催にあたり、ご協力いただきました各関係機関および団体の皆様に対し、紙上をもちまして厚くお礼申し上げます。

### 長田秀治さん(幾寅) 自走式収穫機製造で

## ものづくり日本大賞 地域貢献賞を受賞



自走式収穫機「2条にんじんハーベスタ」

ものづくりを支える企業や人材に贈られる第3回「ものづくり日本大賞」(経済産業省などの主催)において、長田秀治さん(幾寅)が代表取締役社長を務めるオサダ農機株式会社(富良野市)で製造した人参や大根の「自走式収穫機」が、「地域貢献賞」を受賞しました。

「自走式収穫機」は、長田さんをリーダーとする同社の技術スタッフ6名で開発されたもので、人参や大根を畑から抜き取り、茎葉を出荷規格の長さで切断してコンテナなどに収納する収穫機であり、シンプルな構造で耐久性が高く、また、高精度な茎葉切断作業の自動化など、収穫作業の省力化

や労働力不足の解消に大きく貢献したことが評価されたものです。

このたびの受賞に際して長田さんは、「収穫機の開発に取り組んでから約20年になりますが、これまでに様々な試行錯誤を繰り返して作り上げた機械だけに、大きな評価をしていただき、とてもうれしいです。」と受賞を喜んでいました。

オサダ農機株式会社は、本町幾寅の、南富自動車サービスエリアの農業機械部門が独立して平成15年に設立され、富良野市に工場を構えています。

現在、大型の人参収穫機の製造は、オサダ農機が国内唯一のメーカーとして、全国各地に供給されています。



長田 秀治さん

まちの話題・出来事  
地デジのお知らせ  
長寿医療制度のお知らせ  
カメラレポート  
学校だより  
発信@みなくる  
子育て支援センターだより